

関東地方は観測史上最も早い梅雨明けで、一気に夏突入という感じですね。まだ体が暑さに慣れず、平日ほとんどクリニック内にも

っている私など、日中外に出ると、クラクラしてしまいます。皆さん、熱中症にはご注意ください



## 夏かせ

突然 39-40 度の高熱の出るお子さんが増えてきました。喉が赤くなっていることが多く、溶連菌やアデノウイルスの検査をする時もありますが、多くの人は陰性で、「夏かせの一種かな?」と説明していることが多いこの頃。

喉の奥に水疱ができています。「ヘルパンギーナですね。2-3 日高熱が出るけれど自然に治るから、水分をよくとり、喉にしめないような物を食べてしのいでね。」と説明しやすいのですが…。もしかしたら、発熱直後に来院されていると、水疱がまだできていない状態のお子さんもいるのかもしれない。

夏風邪ウイルスの代表は、上記のヘルパンギーナと手足口病、アデノウイルスです。

**手足口病**は、その名の通り手足や口の中に水疱ができて、熱は出る場合もあれば、出ない場合もあります。膝やお尻も水疱ができてやすい場所です。手足口病を起こすウイルスは何種類もあり、時々全身に多数の水疱ができる派手なタイプも見かけます。

**アデノウイルス**は喉が腫れて高熱が 4-5 日続く病気です。眼脂が出て眼が赤くなると、いわゆるプール熱（咽頭結膜熱）です。アデノウイルスは下痢や嘔吐といった消化器症状を起こすこともあります。

夏かせは、いずれもウイルスが原因になっているため、抗生物質などは効かず、自力で治るのを待つしかありません。水分をよく摂り、ゆっくり休ませましょう。時に髄膜炎を起こすことがあり、発熱・頭痛・嘔吐などの症状がみられる時は要注意。まれですが、脳炎や心筋炎といった重症な状態になることがありますので、意識がおかしい、けいれんが止まらない、何か苦しそう、という時は即、受診を。

## 皮膚の湿疹と食物アレルギー

食物を食べてじんましんや呼吸困難などの症状が出る食物アレルギー。従来は経口摂取によりアレルギーのもととなる物質（アレルゲン）が体内に入ってアレルギーを引き起こすと考えられていました。しかし、最近の研究では、湿疹等で荒れた肌から食物など様々なアレルゲンが体内に入り、アレルギーを引き起こすことがわかってきました。

湿疹があると、皮膚のバリア機能が失われて免疫細胞が皮膚表面のアレルゲンを捉え、アレルギーを増強する免疫細胞が活発になり、IgE 抗体が産生されやすくなるといわれています。国立成育医療研究センターの報告では、保湿剤でスキンケアをしていた

赤ちゃんの方が、スキンケアをしなかった赤ちゃんよりもアトピーや食物アレルギーの発症が抑えられていたとのことです。

保湿剤は、ピーナッツオイルなど食物成分が含まれているものは避けるべきですが、市販の赤ちゃん用の保湿剤で使いやすいもので結構です。既に湿疹ができてしまっている場合は、ステロイド外用薬が必要になる場合もあり、受診してください。「赤ちゃんは湿疹がしやすいもの」とあきらめず、将来の食物アレルギー予防のためにも、滑らかお肌を目指しましょう。

## 弱視予防に目のスクリーニングを

5 月のニュースにも書きましたが、斜視や屈折異常（遠視・近視・乱視）がないかスクリーニングする機器を導入しました。乳幼児期に適切な刺激が視覚伝導路に与えられないと視力の発達が止まってしまう「弱視」になってしまいます。早期に発見、治療が開始されれば多くの弱視は改善が期待されます。屈折異常は普段の生活ではなかなかわからないもの。1~3 歳頃に一度スクリーニングすることをお勧めします。（乳児健診以外は自費 500 円）

## 感染症流行状況

感染症	人数（人）
溶連菌	14
アデノウイルス	11
RS ウイルス	1
ロタウイルス	0
マイコプラズマ	2
インフルエンザ A	1
インフルエンザ B	0
ヒトメタニューモウイルス	1

(2018. 5. 28~6. 30)

## 今月の一冊

「ボワットちゃんのひみつのはこ」

作：藤田美菜子

ボワットちゃんの宝物は、すみれの花の箱と、陶器でできた子犬のコフレ。ある晩、ボワットちゃんは、不思議な夢を見ました。

ボワットちゃんがコフレと一緒に開ける箱の中に、すてきな七色の世界が想像力豊かに広がっています。(T. K.)



## 今月の予定

- 7月15日(日) 午前 JA とりで総合医療センター 救急外来担当
- 26日(木) つくばみらい市 1歳6か月児健診
- 27日(金) 守谷市 1歳6か月児健診